

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第260集

# 藤崎遺跡7

—第19次調査の報告—

1991

福岡市教育委員会

# 藤崎遺跡7

—第19次調査の報告—



遺跡調査番号 8978

遺跡略号 FUA 19

1991

福岡市教育委員会

## 序

福岡市西部の藤崎一帯には、先人達の残した文化遺産が数多く分布しています。都心に近いこれらの地域は、市営地下鉄の開業以来再開発事業が活発化し、遺跡包蔵地内での高層ビルの建設が増加しているところです。

このたび、民間の共同住宅建設とともに藤崎A遺跡群の一部を発掘調査いたしました。

福岡市では、工事などによってやむなく消滅するこれら文化遺産については、文化財保護の立場から記録保存に努めているところです。

発掘調査の結果、弥生時代から中世・近世にわたる遺構・遺物が発見されました。

本書は、これらの発掘調査の成果を収録したものです。本書が、埋蔵文化財に対する認識と理解、さらには学術研究上役立つことができれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査から整理報告に至るまで株式会社共立建物をはじめ、多くの方々のご理解とご協力を賜わりましたことに対し、心より感謝の意を表する次第です。

平成3年1月10日

福岡市教育委員会

教育長 井口雄哉

## 例　　言

1. 本書は、福岡市教育委員会が1990年3月6日から3月28日にかけて発掘調査を実施した、共同住宅建設に伴う藤崎A遺跡群第19次緊急発掘調査の報告書である。
2. 遺構の呼称は記号化し、土壙→SK、溝→SD、ピット→SPとした。なお、遺構番号は種類に関係なく連番とした。ただし、SPはSPだけで番号を付している。
3. 本書に使用した遺構・遺物図作成及び現場写真撮影は、下村　智、上方高弘が行なった。また、製図及び写真図版は、下村の他、安野　良、竹原りえ、古村知子が行なった。遺物写真是上方高弘の撮影による。
4. 本書で用いる遺構図の方針は全て磁北である。
5. 藤崎A遺跡群第19次調査に係る遺物、記録類(図面、写真、スライドなど)は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・管理される予定である。
6. 本書の執筆・編集は下村が行なった。

遺跡調査番号	8978	遺跡略号	F U A		
調査地地籍	早良区高取一丁目455番地			分布地図番号	
開発面積	674m <sup>2</sup>	調査対象面積	674m <sup>2</sup>	調査実施面積	350m <sup>2</sup>
調査期間	1990年3月6日～3月28日			事前審査番号	1-2-187

# 本文目次

## 序

Iはじめに .....	1
1 調査に至る経過と調査組織 .....	1
2 遺跡の立地と環境 .....	1
II調査の記録 .....	3
1 土壌 .....	3
2 溝 .....	4
IIIおわりに .....	7
表1 出土遺物一覧表 .....	7

# 挿図目次

Fig. 1 藤崎遺跡群位置図 (1/25,000) .....	2
Fig. 2 調査地点位置図 (1/4,000) .....	2
Fig. 3 調査範囲図 (1/300) .....	3
Fig. 4 遺構配置図及び土層断面図 (1/100) .....	折込
Fig. 5 S K01・02・04・05・08・09・12・13土壤実測図 (1/40) .....	5
Fig. 6 出土遺物実測図 (1/3) .....	6

# 図版目次

PL. 1 (1) 調査区全景 (南から)	
(2) 調査区南半部近景 (南から)	
PL. 2 (1) 調査区北半部近景 (南から)	
(2) S K04・05・25、S D15出土状況 (南から)	
PL. 3 (1) S K01出土状況 (南から)	
(2) S K01出土状況 (北から)	
PL. 4 (1) S K02出土状況 (北から)	
(2) S K03出土状況 (北から)	

- PL. 5 (1) S K 04出土状況（北から）  
 (2) S K 05出土状況（北から）  
 PL. 6 (1) S K 06出土状況（北から）  
 (2) S K 08出土状況（南から）  
 PL. 7 (1) S K 09出土状況（南から）  
 (2) S K 10出土状況（西から）  
 PL. 8 (1) 北側土層堆積状況（南から）  
 (2) S K 12・13出土状況（南から）  
 PL. 9 (1) S K 12出土状況（西から）  
 (2) S K 13出土状況（南から）  
 PL. 10 (1) S D 14土層堆積状況（西から）  
 (2) S D 14北側土層堆積状況（南から）  
 PL. 11 S K 01出土遺物(1)  
 PL. 12 S K 01出土遺物(2)  
 PL. 13 S K 01出土遺物(3)  
 PL. 14 S K 01出土遺物(4)  
 PL. 15 S K 01出土遺物(5)  
 PL. 16 S K 01出土遺物(6)  
 PL. 17 S K 01出土遺物(7)  
 PL. 18 S K 01出土遺物(8)  
 PL. 19 S K 01出土遺物(9)  
 PL. 20 S K 01出土遺物(10)  
 PL. 21 S K 01出土遺物(11)  
 PL. 22 S K 01出土遺物(12)  
 PL. 23 S K 01出土遺物(13)  
 PL. 24 S K 01出土遺物(14)  
 PL. 25 S K 11・S D 14・北側包含層出土遺物  
 PL. 26 近現代井戸址出土・採集遺物

## 表 目 次

# I はじめに

## 1 調査に至る経過と調査組織

平成元年9月7日付で、株式会社共立建物から、高取一丁目455番地内における埋蔵文化財有無確認の事前調査願が教育委員会埋蔵文化財課に提出された。埋蔵文化財課では、藤崎A遺跡群の範囲内にあたるので10月12日に試掘調査を行なったところ、地表下-1mで遺構・遺物を検出することができた。そこで、試掘結果をもとに、施主側と協議をかね、共同住宅建設によって破壊される遺構について、記録保存のための本調査を実施することになった。

調査組織は次のとおりである。

調査委託：株式会社 共立建物

調査主体：福岡市教育委員会

調査総括：埋蔵文化財課長 柳田純孝 埋蔵文化財第2係長 植沢一男

調査庶務：埋蔵文化財第1係 安部 徹（前任） 中山昭剛（後任） 松延好文

調査担当：吉留秀敏（試掘調査） 埋蔵文化財第1係 下村 智

調査補助：上方高弘

調査作業：石松 晋、高田 茂、仲田忠孝、鴨川 整、高砂幸二、江崎光子、川上すぎえ、菅野シゲ、西野悦子、長浦美美子、二本體香代子、松井良子、村田トモヨ、吉住 クニ子

整理作業：上方高弘、安野 良、竹原りえ、吉村知子

## 2 遺跡の立地と環境

早良平野北部の博多湾に面した地域には、室見川をはじめ中小河川が流入し、室見川右岸には百道から西新、島銅にかけて砂丘列が形成されている。藤崎A遺跡群は、百道浜の南に形成された標高5~6mの古砂丘上に位置している。南側には独立丘陵が点在し、周辺には、試掘調査の結果や古い地図などによって後背湿地が形成されていた事が分かる。藤崎A遺跡群の北側に位置する藤崎B遺跡群は、近年の調査によって藤崎A遺跡群と一連のものであると考えられ、遺跡の範囲が拡大するとみられる。

古砂丘上に形成された遺跡群からは、これまで200基を越える弥生時代の豪華墓群や三角縁二神二車馬鏡が副葬された古墳時代前期の方形周溝墓群などが発見されている。また、古墳時代から中世・近世にかけての集落址の存在も明らかになりつつある。



Fig. 1 藤崎遺跡群位置図 (1/25,000)

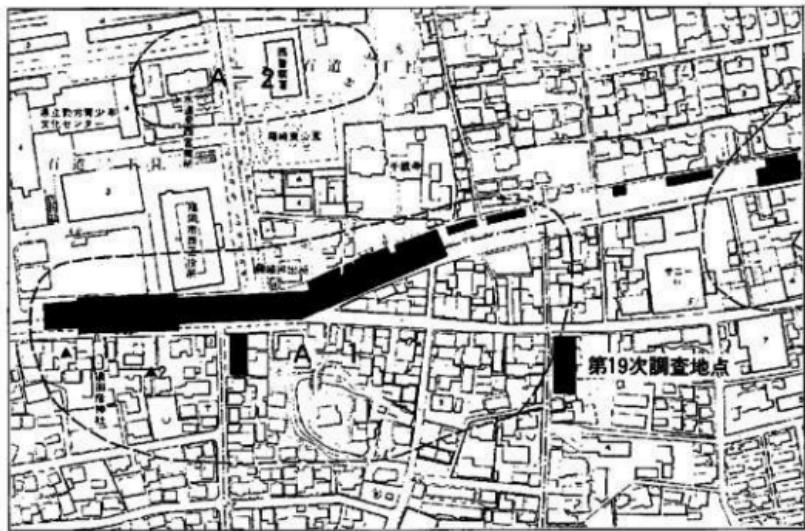


Fig. 2 調査地点位置図 (1/4,000)

## II 調査の記録

### 概要

調査区は、遺跡群の東端部に位置し、南側の独立丘陵地が平坦部に移行する部分にあたる。調査前の標高は4.2m前後で、遺構は現地表から-1mで検出できた。主な検出遺構は、古墳時代後期の土壙・溝、中世の溝、近世の土壙・溝・ピット群などである。

### 1 土壙

#### S K01 (Fig. 5, PL. 3・11~24)

調査区南側で検出した近世の土壙である。長径1.6m、短径0.8m、深さ0.3mを測り、隅丸長方形を呈する。上半部は近現代の擾乱によって失われている。18世紀を中心とする伊万里染付磁器、肥前系の陶器、地元高取系の陶器などが大量に投棄されていた。廃棄物処理のための土壙と考えられる。出土遺物の内容は、染付磁器（一部青磁も含む）が碗、皿、鉢、蓋物、花生、瓶、油壺、壺などで、陶器は碗、皿、鉢、花生、蓋、壺、灯明皿、片口、擂鉢、水指、壺、捏鉢などである。また、素焼きのものに、碗、壺蓋、壺、壺、七輪などがある。その他、瓦や瓦質の大甕なども出土している。出土遺物の説明は、紙数の関係で個々にできないので、表1にまとめている。

S K02 (Fig. 5, PL. 4) 調査区南側のSK01東隣に位置する。中央部が柱穴状に深くなる土壙である。近世の陶磁器片が出土している。

S K03・04 (Fig. 4・5, PL. 4・5) 調査区南側に位置する円形の小土壙である。遺物の出土はなかったが、埋上の状態から近世の土壙と考えられる。

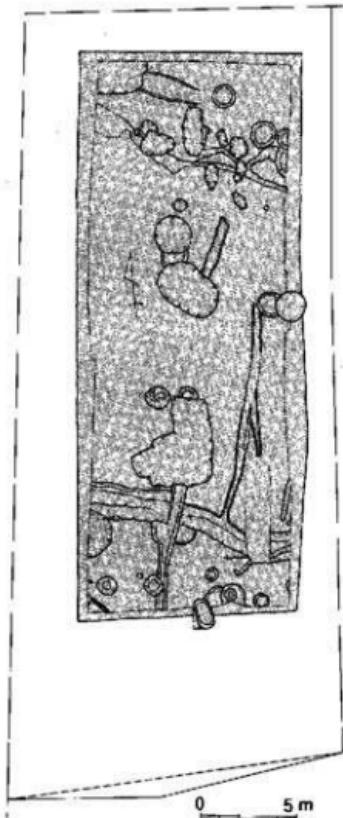


Fig. 3 調査範囲図 (1/300)

**S K05 (Fig. 5, PL. 5)** 調査区南側に位置し、S D15を切っている土壠である。土師質の壺の破片や擂鉢が出土している。近世のものである。

**S K06・07 (Fig. 4, PL. 6)** S K06は、S K05の西に位置する近世の土壠である。略円形を呈し、浅い。S K07は、調査区南側の東壁部分に位置し、一部しか検出していない。染付磁器の碗が出土している。近世以降の土壠か。

**S K08 (Fig. 5, PL. 6)** 調査区中央部に位置する略円形の土壠である。長径1.4m、深さ0.75mを測り、底は二段掘りになっている。近世の染付磁器碗が出土している。

**S K09 (Fig. 5, PL. 7)** S K08の東側に位置し、南側は防空壕で切られている。略円形を呈し、近世の陶器壺の破片が出土している。

**S K10 (Fig. 4, PL. 7)** 調査区中央部東側に位置し、S K11に切られている。径1.3mの円形を呈する近世の土壠である。

**S K11 (Fig. 4, PL. 25)** S K10を切って東壁部分で検出された。崩落の危険があるので下部まで掘り下げていない。土壠としているが井戸址になる可能性がある。出土遺物は、染付磁器碗・皿、陶器の碗・皿・壺・壺・擂鉢・土管・上瓶・灯明皿や窯道具のハマ・陶枕などがある。その他、瓦や素焼の壺・壺・七輪、須恵質の壺などが出土している。近世かそれ以前の時期が考えられる。

**S K12 (Fig. 5, PL. 8・9)** 調査区北側東寄りで検出した土壠である。長径1.5mで底部は皿状に浅く窪む。炭化物が多量に混入する堆土を持ち、土師器の小片が出土している。古墳時代後期のものであろう。

**S K13 (Fig. 5, PL. 8・9)** S K12の西隣りに位置する。径1.3mの略円形の土壠である。S K12と同様に炭化物が多量に混入していた。出土遺物はないが、埋土の状態や包含層から出土する遺物からみて、古墳時代後期に属すると考えられる。Fig. 6-3は、包含層から出土した須恵器壺身である。立ち上りは短く内傾し、底面は平坦にヘラケズリされる。6世紀終末から7世紀始めにかけての時期であろう。

**S K22・23 (Fig. 4)** 調査区北側東壁部分で出土した近世の土壠である。半分以上は未調査区に伸びており詳細は分らない。

**S K25 (Fig. 4, PL. 2)** 調査区南側で出土し、S D15に切られている。出土遺物はないが近世に属する土壠と考えられる。

## 2 溝

**S D14 (Fig. 4・6, PL. 10・25)** 調査区中央部に位置し、略東西方向をとる幅19m前後の大溝である。はじめは人工的な溝ということで調査を進めていたが、掘り下げるに従い下半部が粘質土と砂層の互層となり、自然的な堆積状況を示すに至ったので自然の溝と判断した。

## 土層名

- 1 黒褐色砂質土（瓦礫含む、近現代の施設層）
- 2 細粒土に混じる、砂粒を多く含むもの。
- 3 黄褐色砂質土
- 4 黄褐色細砂
- 5 黑褐色細砂
- 6 黑褐色砂質土
- 7 黑褐色砂質土
- 8a 黑褐色砂質土（瓦礫含む、砂質土に混じる、砂粒を多く含むもの。）
- 8b 黑褐色砂質土（瓦礫含む、砂質土に混じる、砂粒を多く含むもの。）
- 9 黑褐色砂質土
- 10 黑褐色砂土
- 11 黑褐色粘土
- 12 黑褐色砂質土
- 13 黑褐色砂質土
- 14 黑褐色砂質土
- 15 黑褐色砂質土
- 16 黑褐色砂質土
- 17 黑褐色粘土
- 18 黑褐色砂質土と灰褐色の土層
- 19 黑褐色細砂
- 20 黑褐色細砂と黑褐色砂合せ（瓦礫含む）
- 21 黄褐色砂
- 22 黄褐色シルト
- 23 黄褐色砂土
- 24 黄褐色砂質土

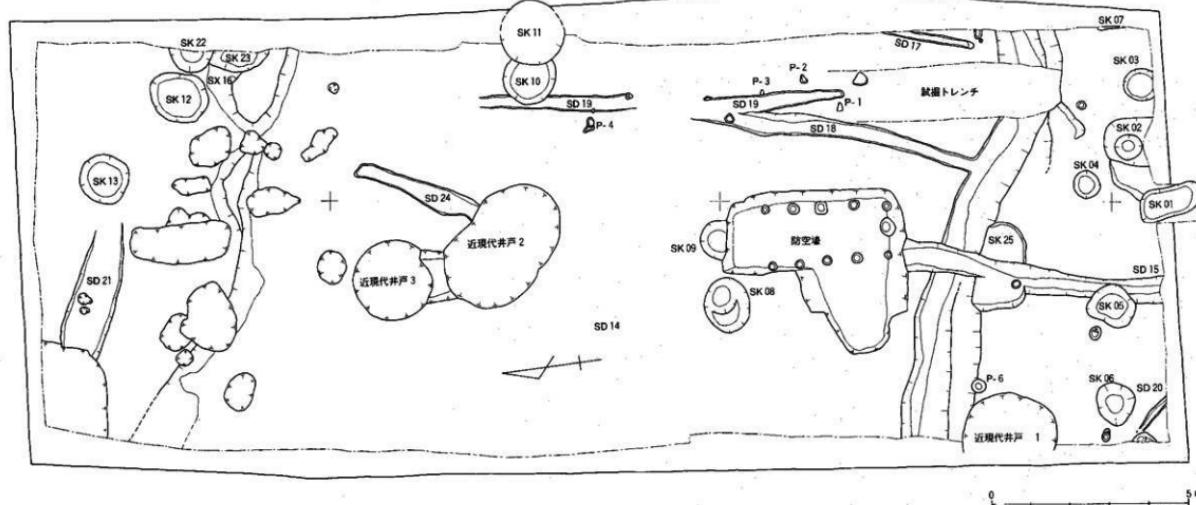
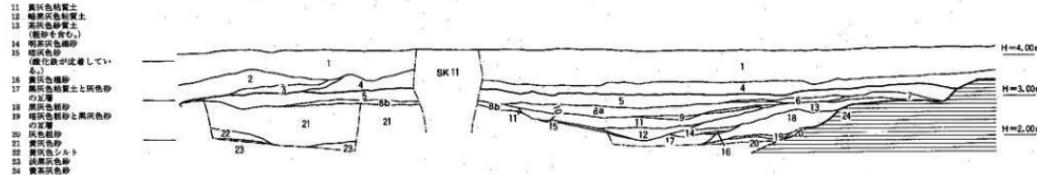


Fig. 4 造構配置図及び土層断面図 (1/100)

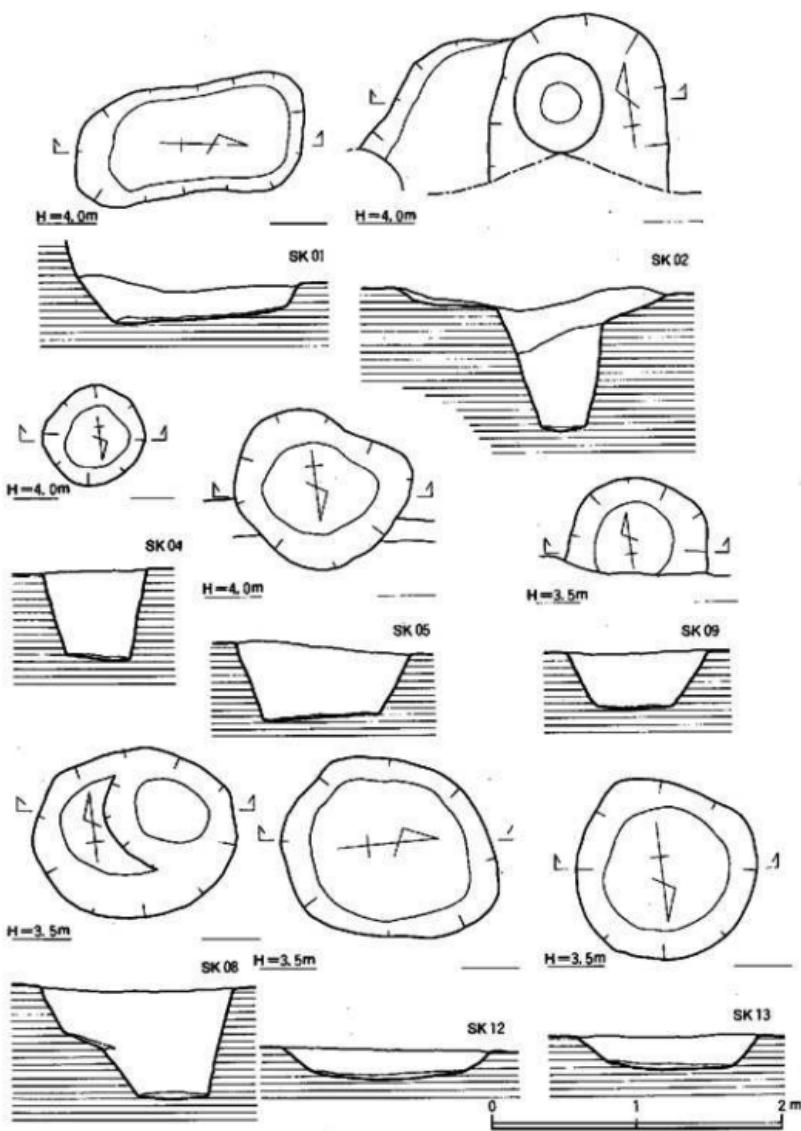


Fig. 5 SK 01-02-04-05-08-09-12-13土壤実測図 (1/40)

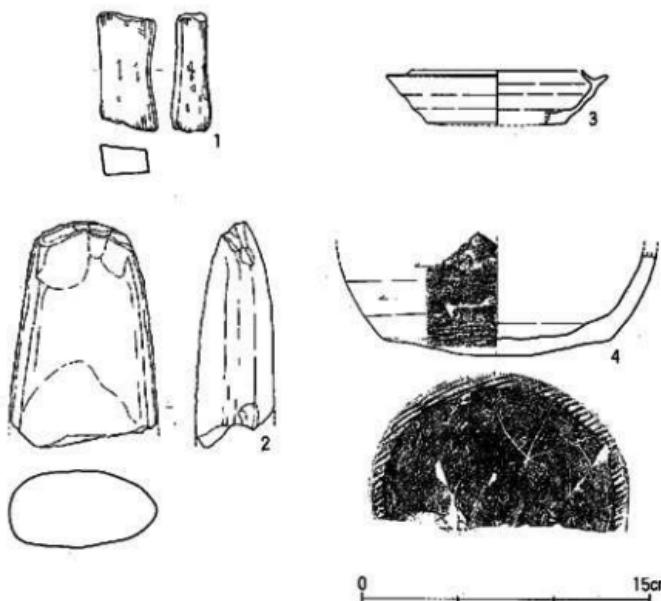


Fig. 6 出土遺物実測図 (1/3)

地表下 - 3 m 以上まで掘り下がるが、湧水が激しく調査は途中で断念せざるを得なかった。出土遺物は少なく、5層は近世、8a・8b・9層が中世、11~14層が古墳時代後期から弥生時代までの遺物を含む層である。17層以下は弥生時代に属すると考えられる。

Fig. 6-1は砂岩製の砥石である。4面とも砥面として使用している。5層出土。2は18層の黒灰色粗砂層から出土した太形蛤刃石斧である。刃部が折損し、風化が激しい。石材は玄武岩か。4は須恵器の壺下半部である。下半部外面はヘラケズリ、底面に移行する部分に平行タタキを施す。底面にはヘラ記号がみられる。8a層出土。北側からの流れ込みとみられる。

**S D15 (Fig. 4, PL. 2)** 調査区南側で検出した南北方向の溝である。近世と考えられる。

**S D17・18・19・24 (Fig. 4, PL. 1)** S D14内で検出された東西及び南北方向の細い溝である。出土遺物は小破片が多くはっきりした時期を決め難いが、中世に属すると考えられる。

**S D20 (Fig. 4)** 調査区南西部で検出した近世に属する小溝である。詳細は分らない。

**S D21 (Fig. 4, PL. 2)** 調査区北側で出土した略東西方向の浅い溝である。幅1.2m前後で黒色砂が埋土となっていた。出土遺物はないが、SK 12・13同様古墳時代後期のものか。

### III おわりに

今回の調査は、遺跡群の東端部ではあったが、弥生時代から近世にかけての遺構・遺物が検出され、遺跡の範囲や成立過程を考える上で貴重な資料を得ることができた。

先ず、調査区中央部に位置する S D 14 の調査によって、下半部は弥生時代の堆積層であることが判明した。少量の弥生土器片と共に太形蛤刃石斧が出土している。弥生時代の遺構の広がりは確認できず、同時代に属する海拔 2 m 以下は流木を含む腐植土層と砂層が互層に堆積しており、調査区北側まで伸びていた。弥生時代には後背湿地か浅い谷状の地形になっていたものと考えられる。

次に、時期ははっきりしないが、弥生時代の腐植土層と砂層との互層の上に、北側では黄灰色の砂層が堆積し、調査区北側のみ海拔 3 m まで堆積している。この層が古墳時代後期の生活面になっている。S K 12・13、S D 21などはこの黄灰色の砂層を基盤として掘り込まれている。この黄灰色砂は、さらに北側に伸びていると考えられ、古墳時代後期の集落は、調査区北側に展開するものと推察される。S D 14 は、黄灰色砂の堆積によって幅 19 m の溝状をなし、中世まで低地としての地形を保っていたとみられる。

中世の遺構は、主に S D 14 内に存在する東西及び南北方向に走る細い溝である。中世に属すると考えられる遺物が少量出土しているのみである。この S D 14 は人工的な溝ではないが、調査区西側でこれまで調査した第 8・10・12・14 次調査の中世溝と接続する可能性がある。また、調査区東側には、昭和初期の地図によれば低湿地が広がっていたことが見て取れ、古い時期にはもう少し西側まで湾入していたものと考えれば今回の調査成果と一致する。

近世になると、調査区全体に遺構が広がる。主に土壤と溝であるが、南端部に位置する S K 01 からは、18世紀後半以降の伊万里染付磁器・肥前系陶器・地元の高取系陶器が一括して多量に出土している。器種によって产地が使い分けされており、興味深い。

表1 出土遺物一覧表

調査番号	層	基盤	柱	柱頭	柱脚	柱頭	層
PL.11-1	伊万里焼付	8.7	4.3	5.4	S E-01	海・茎葉文・底面大輪軸付・くずし縁	
- 2	-	10.4	4.2	5.1	-	-	
- 3	-	10.4	4.3	5.1	-	-	
- 4	-	10.0	4.0	5.7	-	-	
- 5	-	12.1	4.6	5.1	-	青銅鏡(コンニャク印模)・足山鏡(4枚)	
- 6	-	9.6	4.85	5.6	-	二重鏡(足山・足弓・輪形)	
- 7	-	10.4	3.8	4.8	-	鏡に柄を鏽く	
- 8	-	10.3	2.8	3.1	-	物を運く	
- 9	-	10.9	4.0	4.6	-	鏡を運く	
PL.12-10	-	11.6	4.2	4.7	-	扇形 頭被付	
-11	-	-	4.2	4.4	-	-	

調査番号	層	基盤	柱	柱頭	柱脚	柱頭	層
PL.12-12	伊万里白磁	-	4.3	3.7	S E-01	見込 鹿子や花文	
-13	伊万里白磁付	-	4.4	5.5	-	見込 玉手花文	
-14	伊万里青磁	4.7	3.6	3.1	-	-	
-15	伊万里焼付	9.0	4.0	4.9	-	-	
-16	-	-	3.9	-	-	鏡・鹿文	
-17	-	7.9	3.1	4.6	-	鏡・鹿文	
-18	-	8.0	3.2	3.7	-	鏡・鹿文	
-19	-	8.0	3.0	3.9	-	鏡・鹿文	
-20	-	-	-	-	4.8	青銅鏡(コンニャク印模)	
-21	-	10.5	7.6	8.5	-	鹿形文	
-22	伊万里焼付	4.3	2.9	3.3	-	-	

## (つづき)

器種番号	器種	基準(上) 基準(下)	測定値	備考
PL_15-23	伊万里鉢輪裏片	- - -	SE-46	一枚、寄らしした 細
-24	青磁輪裏片	- - -	-	一枚、細の縞付
PL_14-25	伊万里鉢輪裏	15.5 8.2 3.7	-	青磁 蓋子文・尾足 五寸近
-26	-	13.5 8.2 3.9	-	-
-27	*	14.8 8.0 3.3	-	外腹 青字文・尾足 五寸近
-28	*	15.3 7.9 4.1	-	-
PL_15-29	-	13.5 8.2 3.7	-	内腹 青字文・尾足 五寸近
-30	*	13.9 7.4 3.5	-	内腹 青字文・尾足 五寸近
-31	*	13.7 7.5 3.3	-	-
-32	*	13.4 7.9 4.3	-	内腹 青字文・尾足 五寸近
-33	伊万里鉢輪裏	13.7 6.7 3.1	-	-
PL_16-34	伊万里鉢輪裏	- 4.9 -	-	尾足 青字文・縦さき彫り
-35	-	- 4.9 -	-	-
-36	伊万里鉢輪裏	15.5 9.3 6.2	-	青磁 青字文・短足 内腹青花「魚」
-37	伊万里鉢輪裏	16.6 6.1 1.9	-	青磁 青字文・足元 寄らしした文
-38	*	12.2 16.2 4.4	-	尾足文
PL_17-32	伊万里鉢輪裏	12.5 4.1 3.1	-	内腹青字文
-39	-	16.9 12.5 2.5	-	尾足文
-40	-	- 1.9 -	-	-
-41	*	- 1.9 -	-	-
-42	伊万里鉢輪裏	9.5 6.5 16.4	-	-
-43	伊万里鉢輪裏	2.5 5.3 17.1	-	表本文
-44	伊万里鉢輪裏	2.0 4.8 8.5	-	-
-45	伊万里鉢輪裏	- 19.0 -	-	-
-46	*	- 8.0 -	-	表本文
-47	伊万里鉢輪裏	12.5 - -	-	人面彫
PL_18-49	陶器輪	11.7 4.1 8.0	-	黒釉高台・黄字がかった黒縞
-49	-	11.9 4.3 8.8	-	-
-50	-	9.2 2.1 8.0	-	黒釉高台
-51	-	8.7 4.3 5.0	-	黒釉高台
-52	-	8.7 4.0 5.8	-	-
-53	-	8.8 4.3 5.7	-	-
-54	-	9.6 3.8 4.6	-	黒釉高台
-55	-	12.4 3.3 5.0	-	黒釉高台
-56	-	- 3.7 5.2 -	-	-
-57	-	- 4.6 6.9 -	-	黒釉高台・朱字有
-58	*	10.6 - -	-	-
-59	*	10.6 - -	-	-
-60	*	- 1.9 5.5 -	-	黒釉高台
-61	*	- - -	-	-
-62	*	7.7 4.0 3.4	-	-
-63	*	- - 4.5 -	-	-
PL_19-64	陶器輪	- 7.0 -	-	黒釉高台(縞)・ハラ目
-65	-	12.2 8.0 7.2	-	-
-66	陶器輪	20.0 10.2 3.1	-	黒釉高台(縞)・縞付
-67	*	- 5.1 -	-	黒釉高台(縞)・縞付 五寸 寄らし
-68	陶器輪	- 8.0 -	-	-
-69	*	7.8 - 5.0 -	-	-
-70	*	- - -	-	-
PL_20-71	陶器輪裏	20.7 17.7 16.5	-	青白釉・肩口
-72	*	25.4 11.7 11.9	-	田口
-73	*	25.0 14.0 12.1	-	肩口
-74	陶器輪	22.8 11.0 13.9	-	田口
-75	陶器輪裏	23.1 - -	-	-
-76	*	24.6 18.8 16.5	-	田口
-77	*	25.7 - -	-	-
-78	*	25.0 - -	-	-
-79	*	22.2 9.7 8.5	-	-
-80	陶器輪裏	15.7 - -	-	-
PL_21-81	陶器輪裏	8.4 - -	-	青釉
-82	*	- 6.3 -	-	-

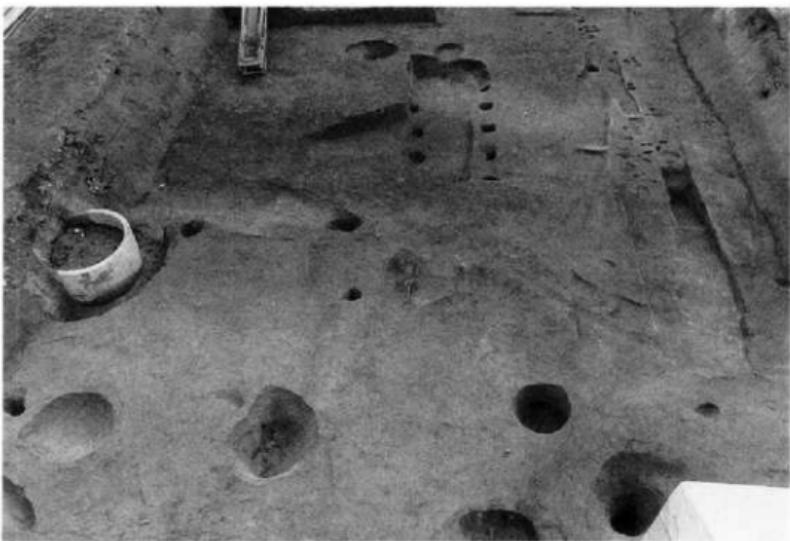
器種番号	器種	基準(上) 基準(下)	測定値	d128	備考
PL_21-82	青器丸洗	-	5.9	-	青磁
-83	*	- 6.8 -	-	-	-
-84	*	- 7.1 -	-	-	-
-85	青器丸洗	14.0 4.2 4.25	-	-	-
-86	*	14.2 4.2 3.35	-	-	-
-87	*	14.2 4.2 3.35	-	-	-
-88	*	14.0 4.2 3.58	-	-	-
-89	*	14.1 4.2 4.5	-	-	-
-90	青器丸	25.3 11.9 8.9	-	-	-
-91	*	- 13.7 18.5 -	-	-	-
PL_22-92	青器皿	14.1 - -	18.5 -	-	水形
-93	*	- 11.1 -	-	-	青磁盤・青器を模す
-94	*	- 13.5 -	-	-	-
-95	*	- 7.3 -	-	-	青磁盤・青器を模す
-96	*	- 7.7 -	-	-	青磁盤・青器を模す
-97	*	- 5.0 -	-	-	-
-98	*	- 1.5 -	-	-	前部に2条の波線
-99	*	- 6.9 -	-	-	青磁
PL_23-100	-	- - -	-	-	青磁
-101	-	- - -	-	-	青磁
-102	青器今村瓶	13.3 8.8 6.0	-	-	青磁
-103	青器皿	7.2 - -	11.1 -	-	青磁手巾
-104	青器皿	12.3 7.8 12.4	-	-	青磁
-105	*	11.8 5.7 8.2	-	-	青磁
-106	*	13.8 6.5 8.1	-	-	青磁
-107	*	15.5 10.2 13.9	-	-	青磁 圓形
-108	*	12.7 9.1 12.2	-	-	-
-109	*	13.9 7.8 1.7	-	-	-
PL_24-111	-	16.0 11.5 26.9	-	-	角瓶
-112	*	16.6 11.2 15.0	-	-	青磁・動作文
-113	青器皿	31.5 3.5 29.8	-	-	-
-114	青器皿	- 10.5 -	-	-	青磁
-115	青器皿	- 10.2 -	-	-	青磁
-116	*	10.2 10.1 -	-	-	青磁・真珠
-117	*	10.6 10.1 -	-	-	青磁
-118	土器質化物	30.0 22.5 27.6	-	-	-
PL_25-121	伊万里鉢輪裏	13.5 6.9 2.9	SE-11	青白釉・青字(金)	-
-120	青器皿	13.6 4.2 4.9	-	-	青磁手巾
-121	*	14.6 5.7 4.1	-	-	-
-122	伊万里鉢輪裏	21.4 9.3 4.4	-	-	-
-123	大形地紋古瓶	107.8 9.4 6.0	SD-14	-	-
-124	伊万里鉢輪裏	- 3.0 -	-	-	越前
-125	青器輪裏	14.5 8.5 8.5	-	-	-
-126	青器輪裏	15.2 19.5 2.1	-	-	-
-127	土器質化物	15.3 14.0 1.9	-	-	-
-128	青器皿	- 12.6 -	-	-	-
-129	成化款茶碗	- 3.8 -	-	-	青磁
PL_26-130	伊万里鉢輪裏	14.8 8.6 5.8	SE-12	青白釉・青字(金)	-
-131	伊万里鉢輪裏	5.2 5.5 -	-	-	青磁
-132	伊万里鉢輪裏	- 5.6 -	-	-	-
-133	青器皿	2.0 3.4 2.2	-	-	青磁手巾
-134	青器皿	- 3.0 1.7 -	-	-	-
-135	青器皿	2.5 2.2 3.7	-	-	-
-136	青器皿	8.4 - 3.6	-	-	色絵
-137	青器小瓶	17.7 4.5 5.3	-	-	青磁
-138	青器皿	19.5 8.0 -	-	-	-
-139	青器皿	- 5.6 -	-	-	-
-140	青器皿	- 7.6 -	-	-	青磁
-141	*	19.6 7.2 -	-	-	-

# **P L A T E S**



▲(1) 調査区全景（南から）

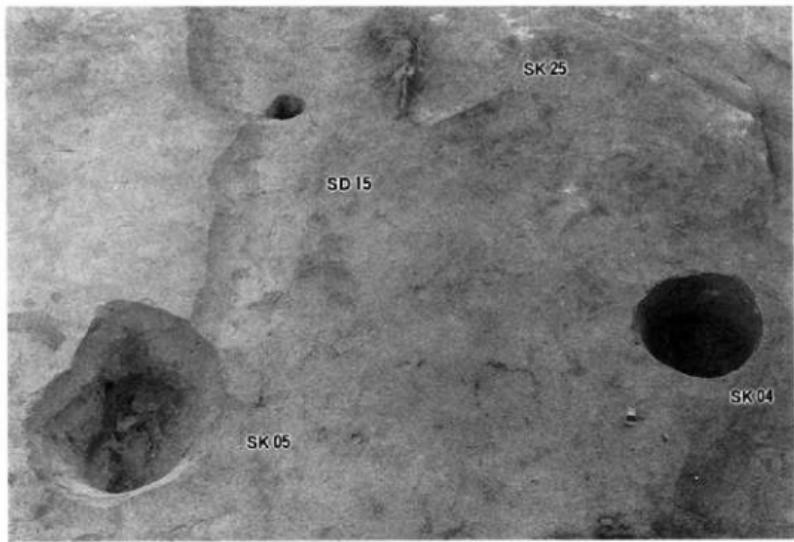
▼(2) 調査区南半部近景（南から）





▲(1) 調査区北半部近景（南から）

▼(2) SK04・05・25、SD15出土状況（南から）





▲(1) SK01出土状況（南から）

▼(2) SK01出土状況（北から）





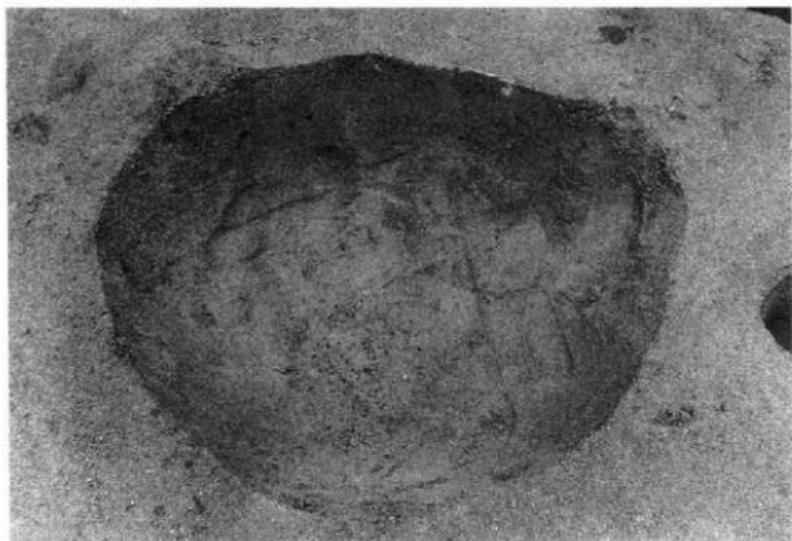
▲(1) SK02出土状況（北から） ▼(2) SK03出土状況（北から）





▲(1) SK04出土状況（北から） ▼(2) SK05出土状況（北から）





▲(1) SK06出土状況（北から）

▼(2) SK06出土状況（南から）





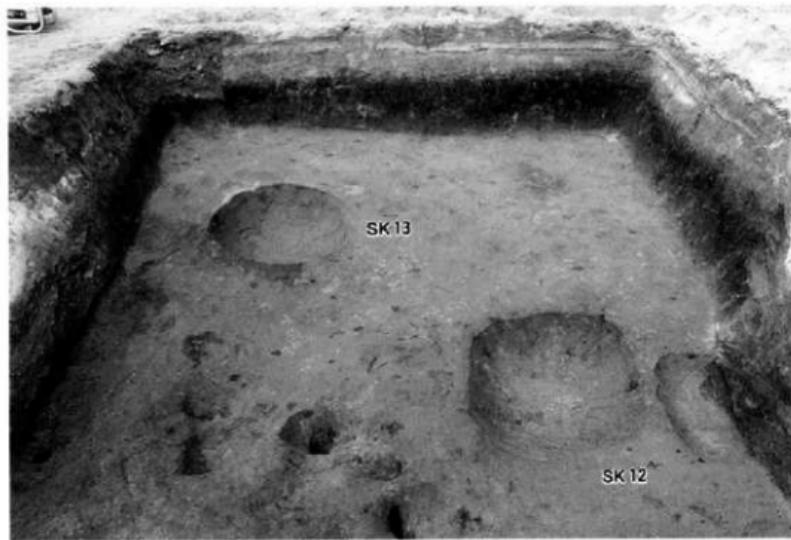
▲(1) SK09出土状況（南から） ▼(2) SK10出土状況（西から）





▲(1) 北側土層堆積状況（南から）

▼(2) SK12・13出土状況（南から）





▲(1) SK12出土状況（西から）

▼(2) SK13出土状況（南から）

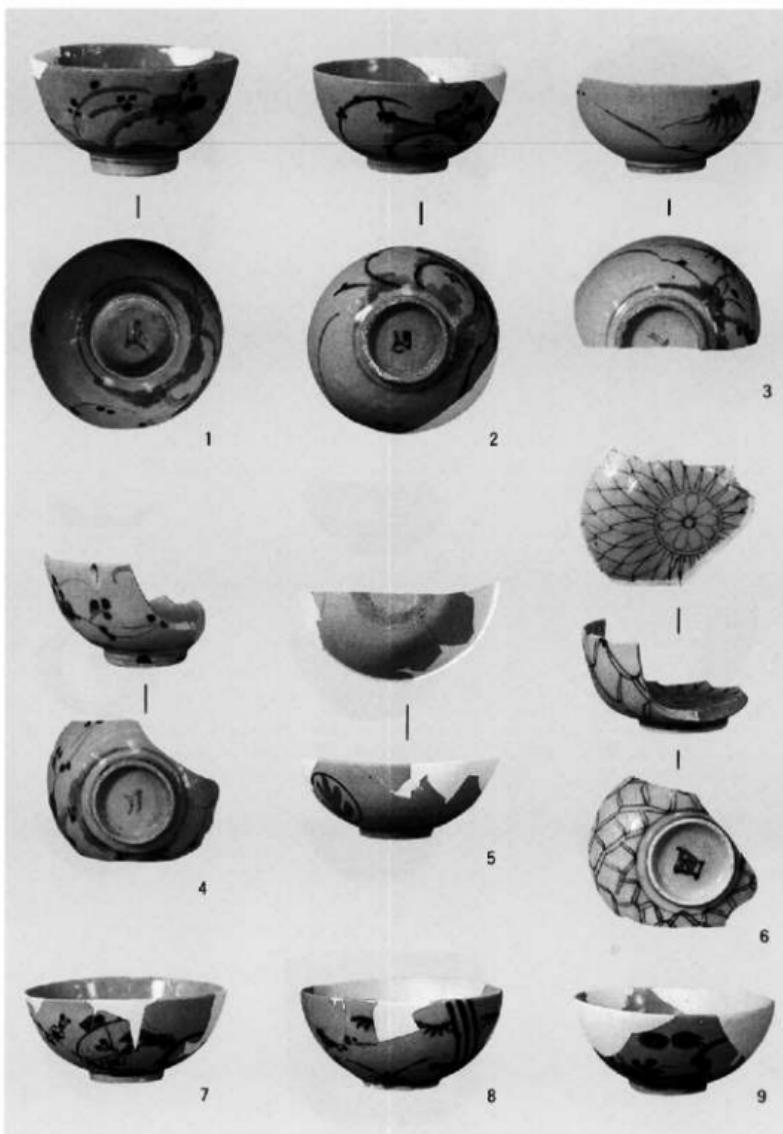




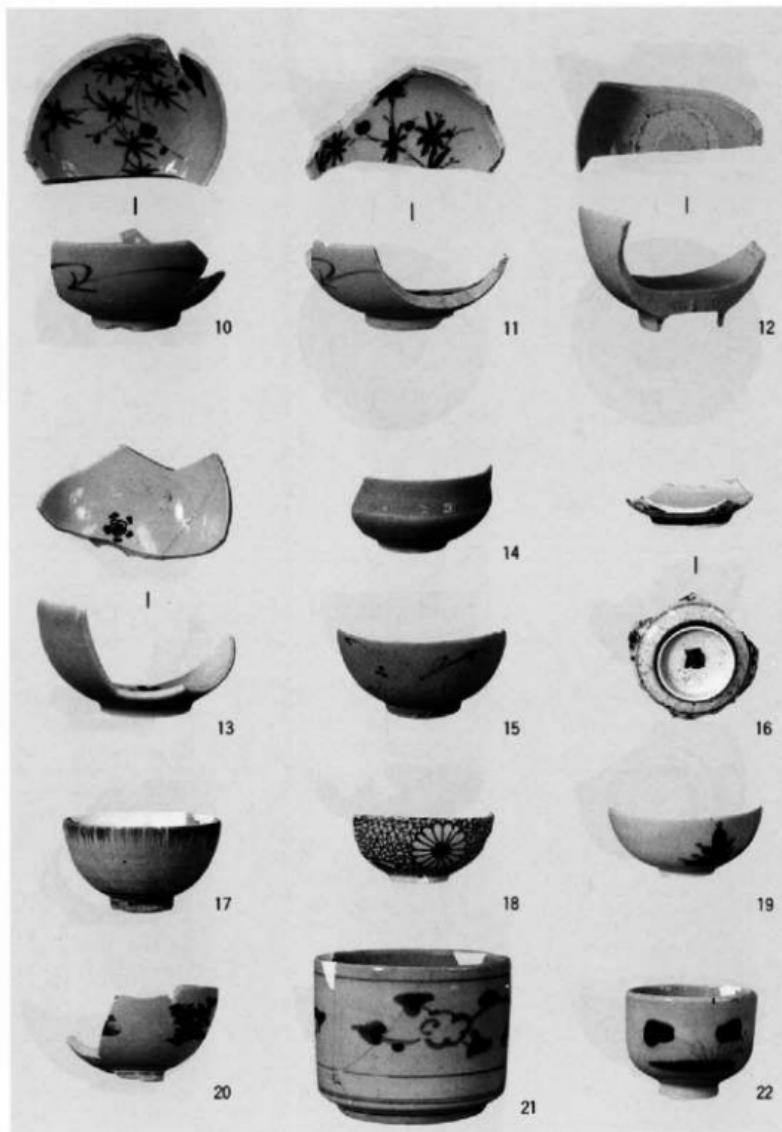
▲(1) SD14土層堆積状況（西から）

▼(2) SD14北側土層堆積状況（南から）

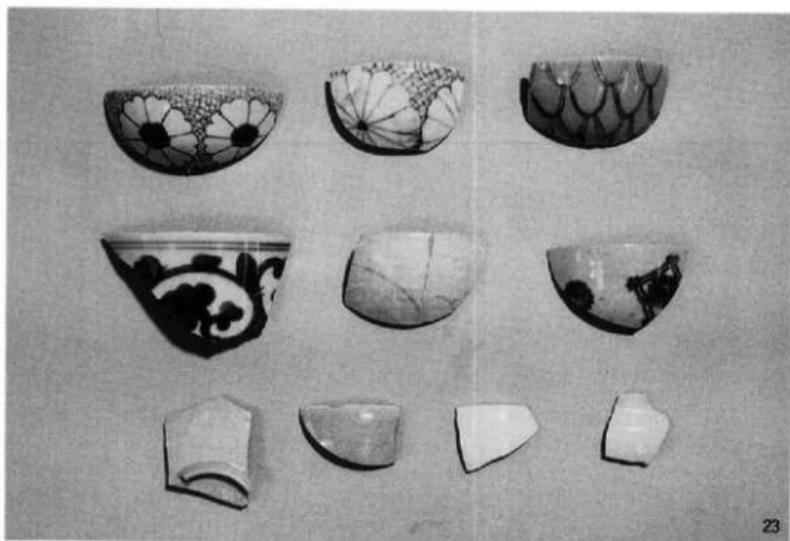




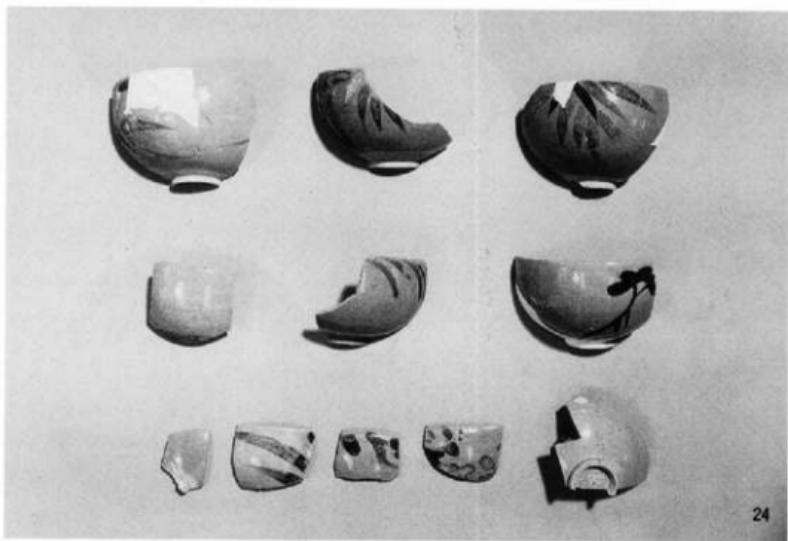
S K 01出土遺物(1)



SK 01出土遺物(2)

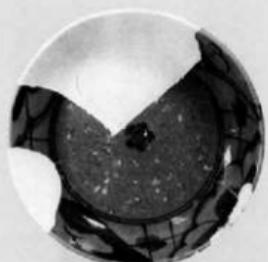


23

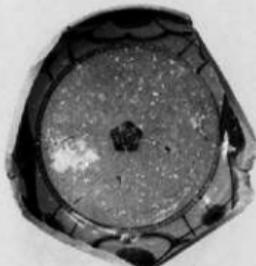


24

S K 01出土遺物(3)



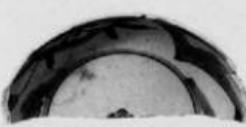
25



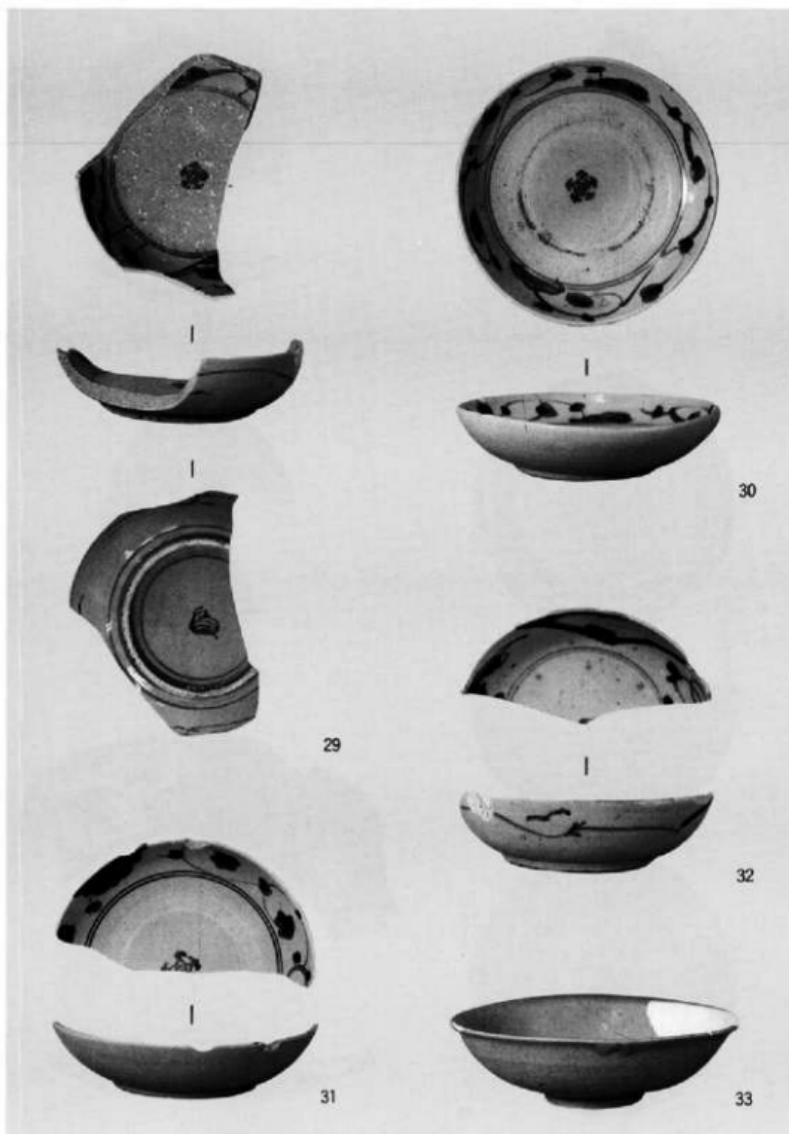
26



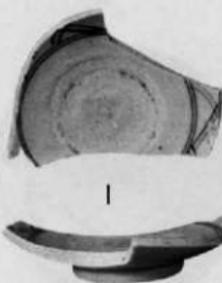
27



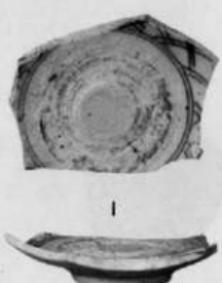
28



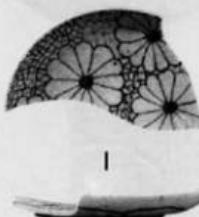
S K 01出土遺物(5)



34



35



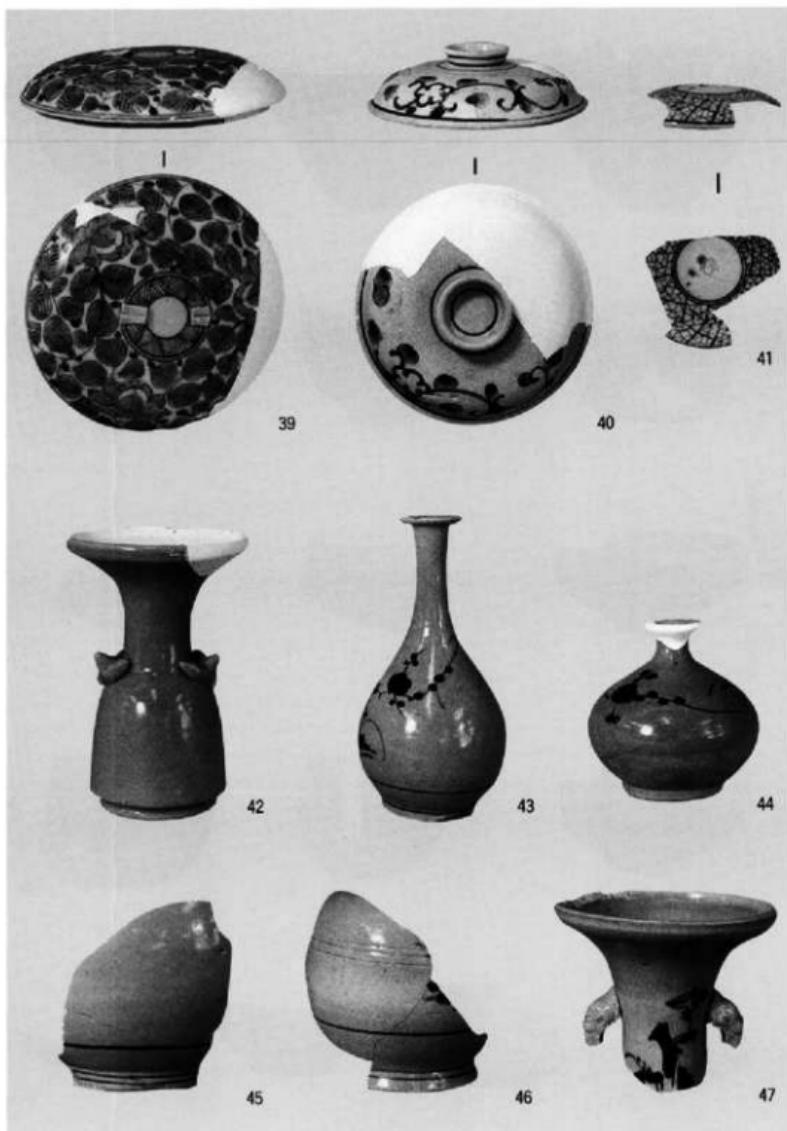
37



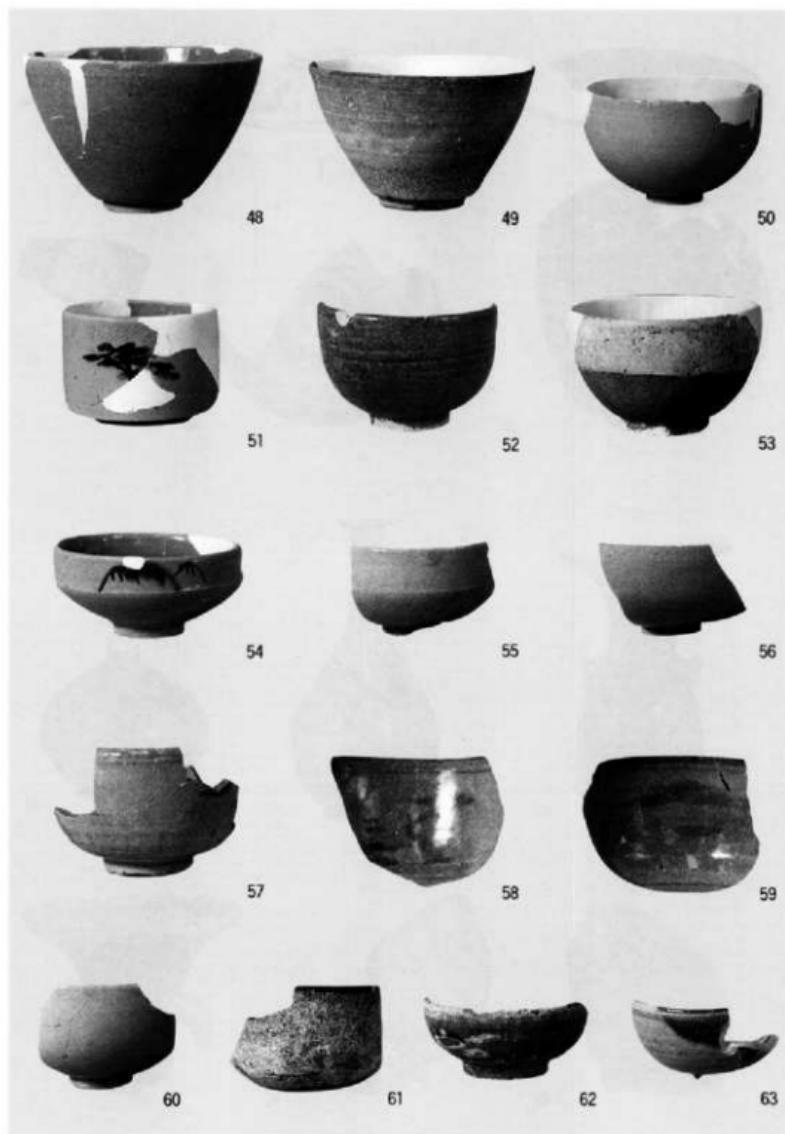
36



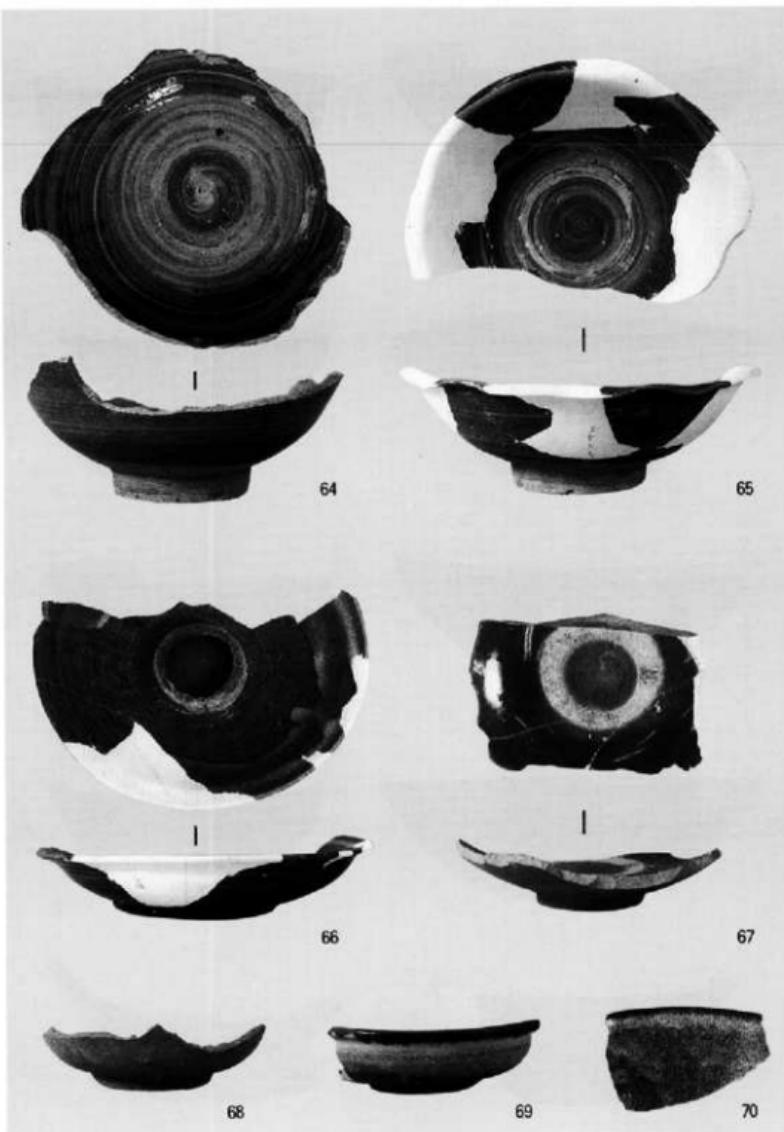
38



SK 01出土遺物(7)



S K 01出土遺物(8)



S K 01出土遺物(9)



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



S K 01出土遺物(1)



92



93



94



95



96



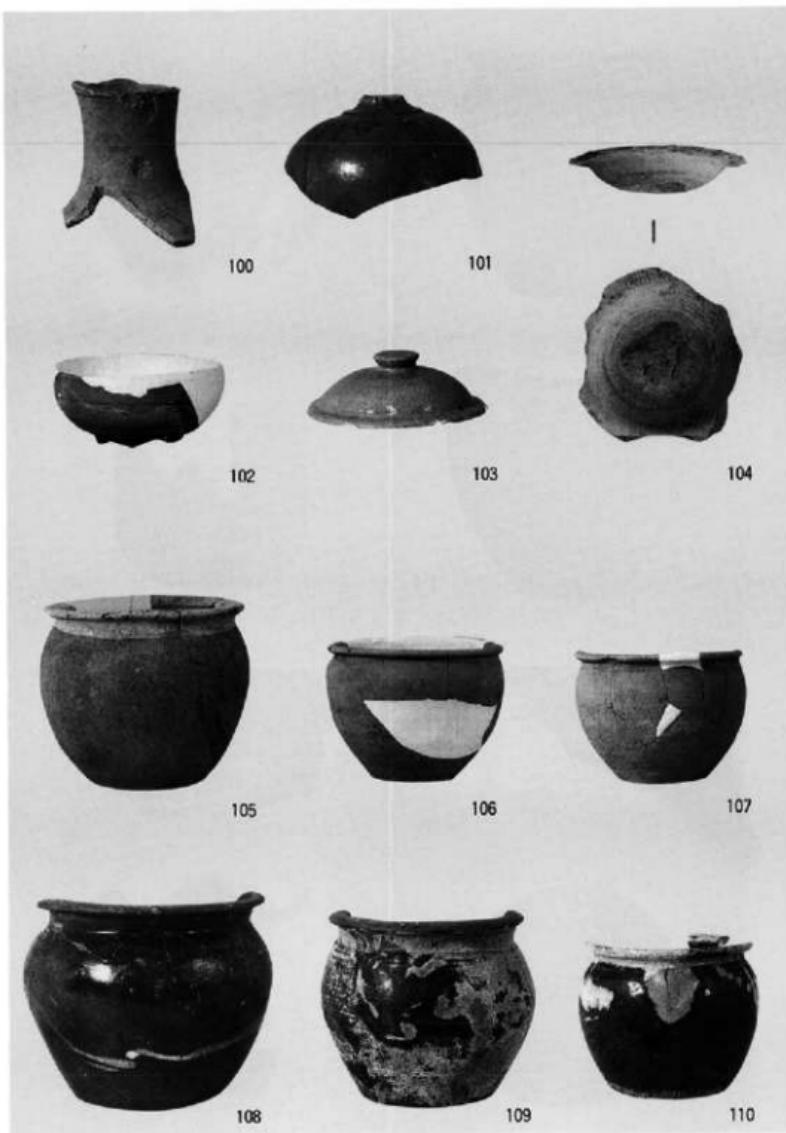
97



98



99



SK 01出土遺物(II)



111



112



113



114



115



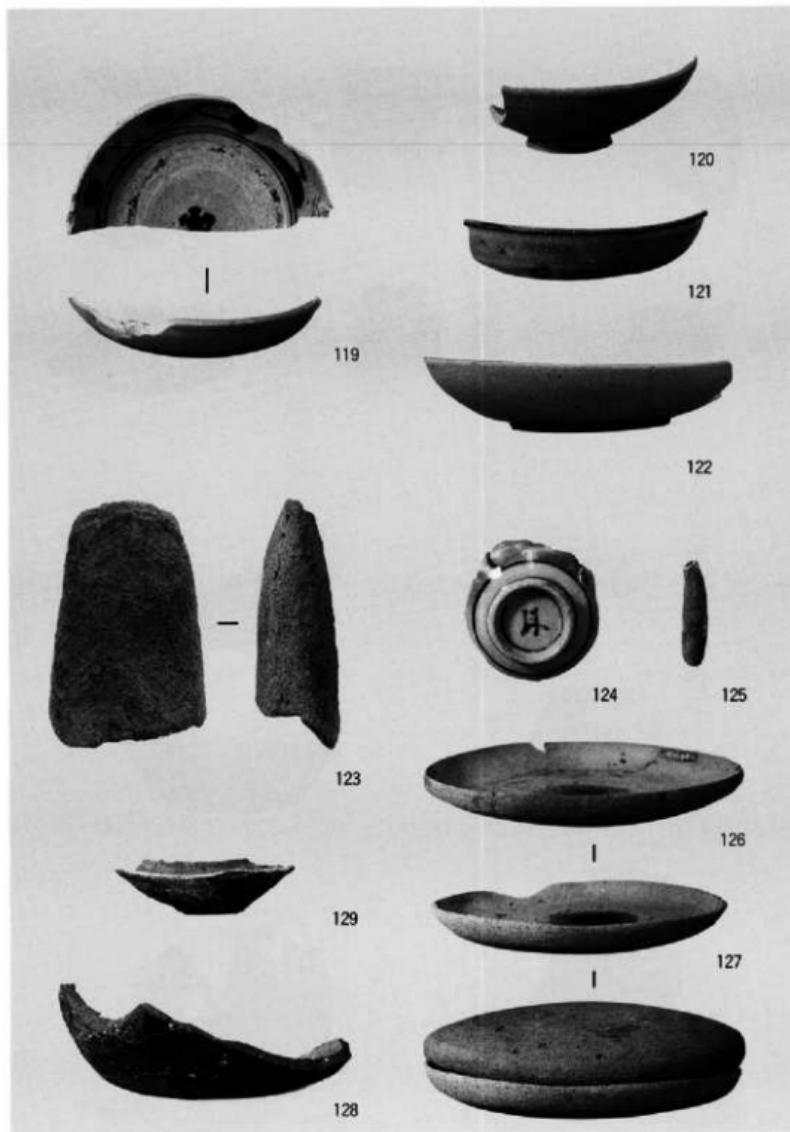
116



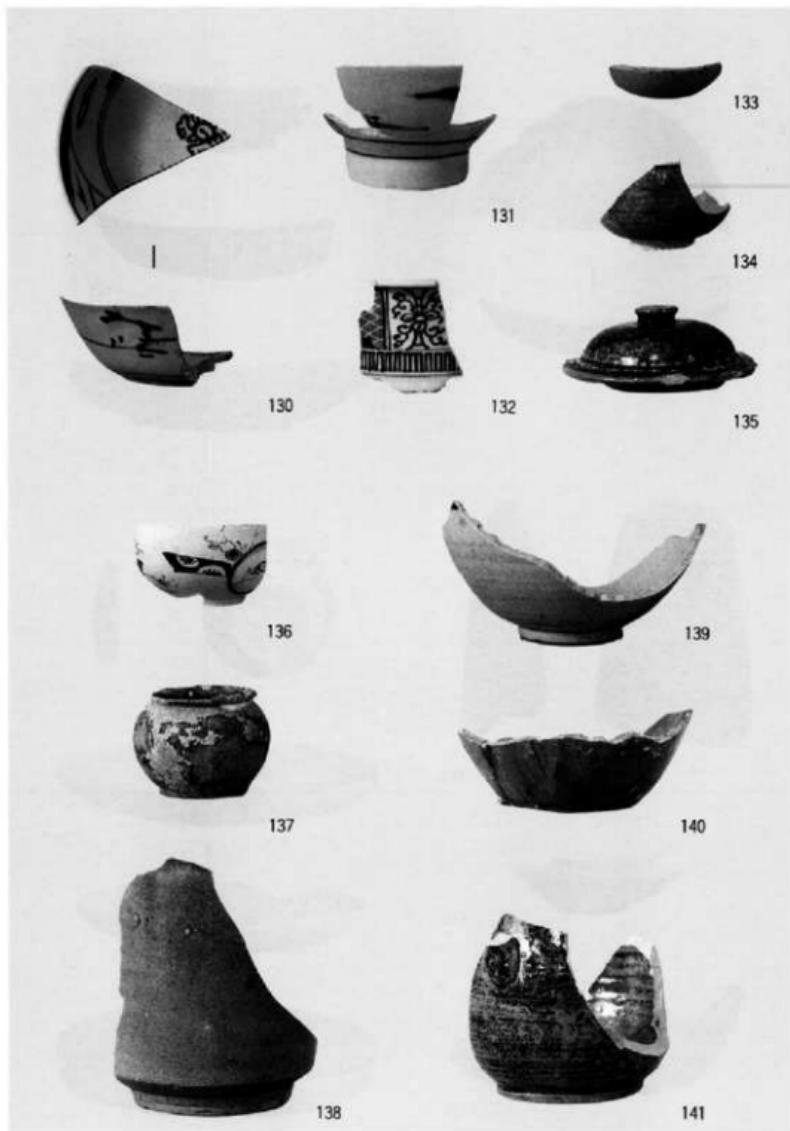
117



118



SK11 (119~122) • SD14 (123~128) • 北側包含層 (129) 出土遺物



近現代井戸址出土 (130~140)・採集 (137~141) 遺物

## 藤崎遺跡 7

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第260集

平成3（1991）年3月15日

発 行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区大博一丁目8-1  
(092)711-4667

印 刷 同盟印刷株式会社  
福岡市博多区博多駅南六丁目6-1  
(092)431-4061

